D01211001B

ESOTERIC

Grandioso D1

Monoblock D/A Converter

取扱説明書

目　次

安全にお使いいただくために 4
お使いになる前に 6
　付属品の確認 6
　設置について 6
　お手入れ 6
　使用上の注意 7
　電源の極性について 7
接　続 8
各部の名称 (本体) 10
各部の名称 (ディスプレー) 11
基本操作 12
設定モード 12
　設定モード時の表示と内容 13
　アップコンバート設定 13
　DSD デジタルフィルター設定 13
　クロック設定 14
　クロック入力端子選択 15
　クロック出力設定 15
　再生チャンネル設定 15
　ディマー (DIMMER) 16
　アナログ出力設定 16
　自動ディスプレー消灯設定 17
　オート・パワー・セーブ設定 17
パソコンと接続して音楽ファイルを再生する 18
　ドライバーのインストール 18
困ったときは 20
　出荷時の状態に戻す 20
メッセージ一覧 21
仕　様 22
i.LINK (IEEE1394) 23
保証とアフターサービス 24
リアパネル 25

"DSD" is a registered trademark.

"Super Audio CD" is a registered trademark.

Microsoft, Windows and Windows Vista are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

Apple, Macintosh and MacOS X are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

"i.LINK" および "i.LINK" ロゴは商標です。

MEXCEL は三菱電線工業株式会社の登録商標です。

ESOTERIC およびエソテリックは、ティアック株式会社の登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠	**警告** 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (26 ページ記載) に修理をご依頼ください。
禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら (芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (26 ページ記載) に交換をご依頼ください。
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	交流 100 ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧 (交流 100 ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し (20cm 以上) 離して置く **ラックなどに入れるときは、機器の天面から 5cm 以上、背面から 10cm 以上のすきまをあける** すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的 (年 1 回くらい) に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (26 ページに記載) にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

⚠ 注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す** ケーブルが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のケーブルを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器は約 24.0kg あり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。

愛情点検

電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5 年に 1 度は、販売店またはティアック修理センター (26 ページに記載) に内部の点検をご依頼ください。費用についてはお問い合わせください。

お使いになる前に

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

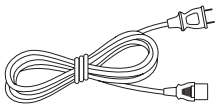
エソテリック製品は、最良の音質で末永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

付属品の確認

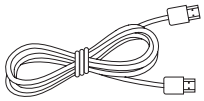
万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社 AV お客様相談室 (26 ページに記載) にご連絡ください。

電源コード ×1

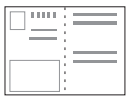


フェルト ×4 枚

HDMI ケーブル ×1



ご愛用者カード ×1



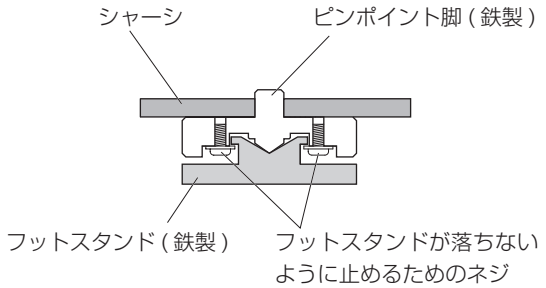
取扱説明書 (本書)×1

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

設置について

本機の底板には、高精度の鉄製ピンポイント脚が強固に取り付けられています。



フットスタンドはぐらついた状態になっていますが、設置するとピンポイント支持になり、振動を効果的に分散させます。

- 設置面を傷付けたくない場合は、フットスタンドの裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。

お手入れ

製品表面の汚れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。ひどい汚れのときは、固く絞った布で水拭きしてください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上の注意

- 本機の上には物を置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 安定した場所に設置してください。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。
- ES-LINK で使用する HDMI ケーブルは ESOTERIC 独自フォーマットの信号である為、通常の HDMI 端子を搭載した他社機器とは接続しないでください。互換性はありません。

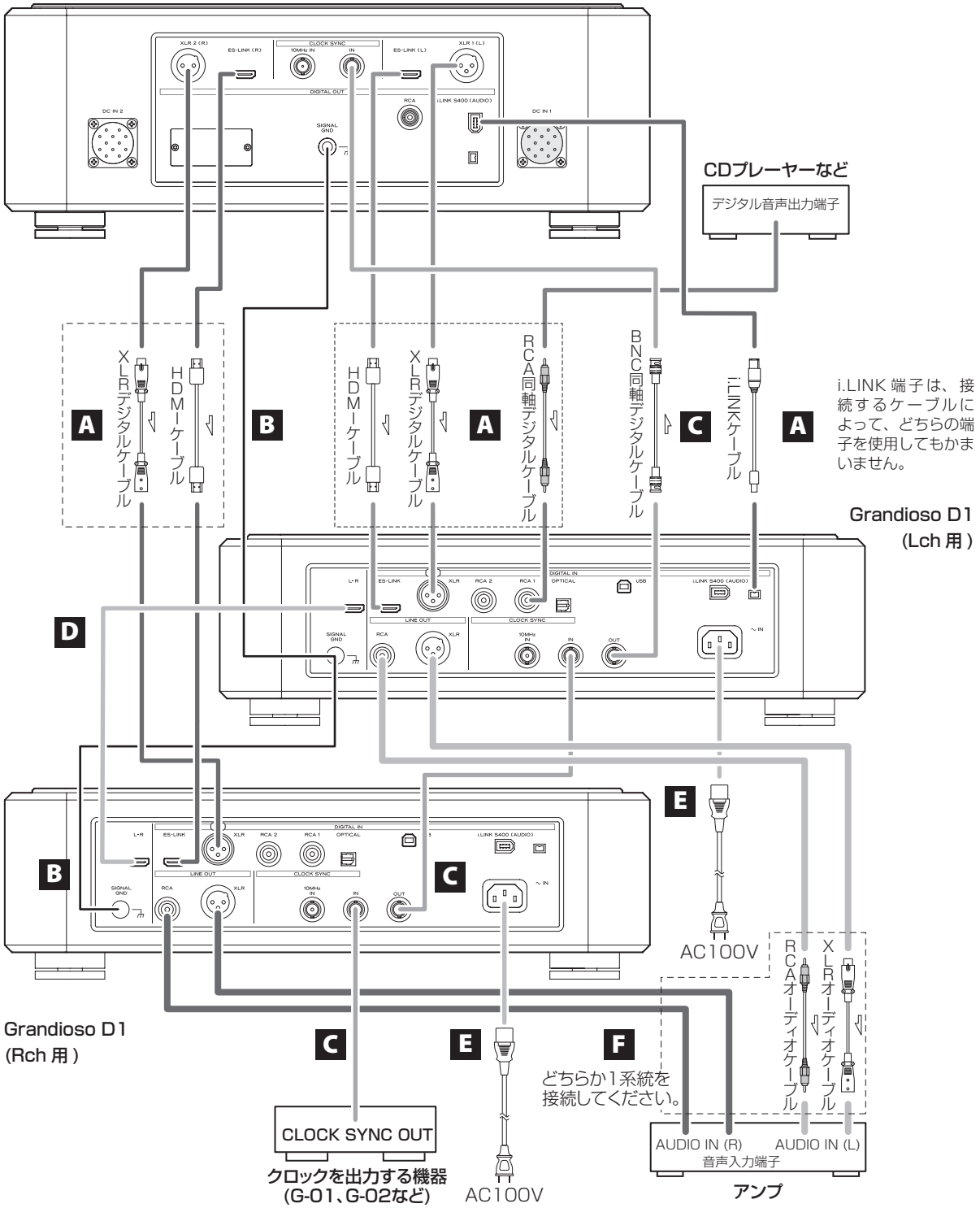
電源の極性について

付属の電源コードのプラグ部分のマーク (PSE) は、本機のアース側を示しています。一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。

接続時の電源プラグの差し込む向き (極性) によって、音質が変わることがあります。お好みの音質となる向きで接続してください。

接　続

スーパーオーディオ CD/CD トランスポート (Grandioso P1)



⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

A デジタル音声入力端子

デジタル音声を入力します。
デジタル機器 (P1/P-01/P-02/P-03/P-05 など) のデジタル出力端子と接続してください。

ES-LINK : HDMI ケーブル

以下の接続には市販のケーブルをお使いください。

XLR : XLR デジタルケーブル
RCA : RCA 同軸デジタルケーブル
OPTICAL : 光デジタルケーブル
i.LINK(AUDIO) :
S400 対応の 6 ピンまたは 4 ピンの i.LINK ケーブル (IEEE1394 ケーブル)

- P1 との接続は ES-LINK 接続を推奨します。
- i.LINK(AUDIO) 端子は、接続した機器との双方向のデータ転送が可能なインターフェースです。入力 / 出力の区別はありません。
- i.LINK 端子は、6 ピンと 4 ピンの端子を備えています。接続するケーブルによってどちらかをご使用ください。
  複数の機器と i.LINK ケーブルで接続する場合は、両方の端子を使ってください。(i.LINK ケーブルの接続については、23 ページをお読みください)
- XLR は Dual AES 対応です。お手持ちのデジタルソース機器が Dual AES に対応している場合は、2 本のケーブルを使って Lch 用の XLR 端子とソース機器のデジタル出力 (L) 端子、Rch 用の XLR 端子とソース機器のデジタル出力 (R) 端子をそれぞれ接続してください。

B アース端子 (GND)

アース端子を別の D/A コンバーターやアンプなどとアース接続すると、音質が良くなることがあります。

- 安全アースではありません。

C クロック シンク入出力端子 (CLOCK SYNC IN、OUT、10MHz IN)

同期信号 (クロック シンク) を入出力します。
マスタークロックジェネレーターを使用する場合は、マスタークロックジェネレーターのクロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) と本機のシンク入力端子 (CLOCK SYNC IN) を接続してください。

10MHz 発振器の信号を入力する場合は、発振器の出力を本機の 10MHz IN 端子に接続してください。

クロック設定で、クロック シンクする端子を選んでください。(14 ページ)

クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) は、デジタルソース機器の CLOCK SYNC IN 端子と接続してください。

接続には市販の BNC 同軸デジタルケーブルをお使いください。(CLOCK SYNC IN/OUT :75Ω 10MHz IN: 50Ω)

D Lch-Rch 通信用端子 (L-R)

本機を L、R の 2 チャンネルで使用する場合は、この端子を HDMI ケーブルで接続してください。

CH(チャンネル) 設定で Lch に設定されている D1 から Rch に設定されている D1 に各種設定や右チャンネルのオーディオデータが伝送されます。

- 本機をマルチチャンネル再生を行うときは、各 D1 を i.LINK(AUDIO) 端子で接続してください。(23 ページ)

E 電源インレット

電源インレットに付属の AC 電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグを AC100V の電源コンセントに差し込んでください。

- 本機の電源コード接続ソケットは 3 ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

⚠ エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

F アナログ音声出力端子 (LINE OUT)

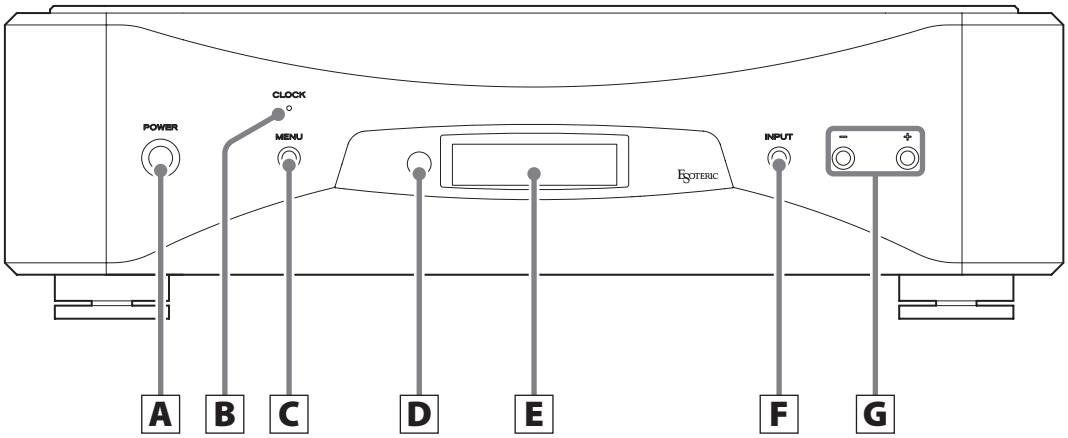
アナログの音声を出力します。
アンプに XLR の音声入力端子がある場合は、市販の XLR オーディオケーブルを使って接続してください。

アンプに RCA の音声入力端子がある場合は、市販の RCA オーディオケーブルを使って接続してください。

エソテリックでは、リファレンスとしてエソテリック **MEXCEL** ストレスフリーケーブルを使用しています。
詳細については下記ウェブサイトをご覧ください。

http://www.esoteric.jp/products/esoteric/accessory/index.html

各部の名称 (本体)



A 電源ボタン (POWER)

電源のオンとオフを切り換えます。
電源がオンのときは、ボタンの周囲が青く点灯します。
電源がオフのときは、消灯します。

本機を使わないときは、電源をオフにしてください。

B クロックインジケーター (CLOCK)

クロックシンクの状態を表示します。

青色に光る

クロック設定が PLL 以外のシンク動作のとき、クロックの探知中はインジケーターが点滅して、クロックを感知して同期すると点灯に変わります。

緑色に光る

USB、i.LINK の内部クロックでの動作時に点灯します。

C メニューボタン (MENU)

設定モードに入ります。(12 ページ)

D リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

- 本機にリモコンは付属していません。
- 本機は P1 などのエソテリック製品付属リモコンでディマーの変更ができます。(16 ページ)

E ディスプレー

選択されている入力端子の情報などを表示します。

F 入力切換ボタン (INPUT)

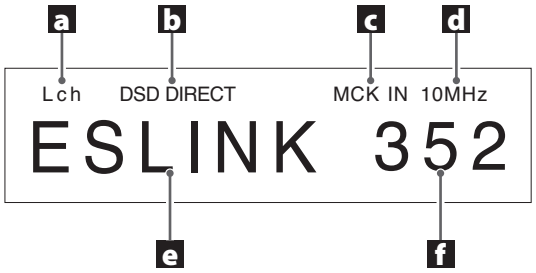
デジタル入力を切り換えます。デジタルソース機器が接続されている端子を選んでください。デジタル信号が入力されていないときは、ディスプレーに表示される「INPUT」の右の Fs 周波数が表示されません。

G 選択項目変更ボタン (– /+)

設定モード時のパラメーター変更に使用します。

- 本機で音量の変更は出来ません

各部の名称（ディスプレー）



a チャンネル表示

本機が再生するチャンネルを表示します。(15 ページ)

無表示：
チャンネル設定なし、モノラル出力のソース機器のみをお使いの場合この設定をお使いください。

Lch：
フロント左チャンネル設定、Rch 設定の D1 と L-R LINK 接続することで、各種設定の共有とステレオ出力のみのソース機器からの右チャンネルのオーディオ信号を Rch の D1 に伝送します。

Rch：
フロント右チャンネル設定、Lch 設定の D1 と L-R LINK 接続することで、各種設定の共有とステレオ出力ソース機器からの右チャンネルオーディオ信号を受信し、再生を行うことができます。

Cch：
センターチャンネル設定、i.LINK 接続で SACD のマルチチャンネル再生を行う際に設定してください。

SWch：
サブ・ウーハーチャンネル設定、i.LINK 接続で SACD のマルチチャンネル再生を行う際に設定してください。

LSch：
サラウンド左チャンネル設定、i.LINK 接続で SACD のマルチチャンネル再生を行う際に設定してください。

RSch：
サラウンド右チャンネル設定、i.LINK 接続で SACD のマルチチャンネル再生を行う際に設定してください。

b アップコンバート表示

無表示：
アップコンバート機能を使用していません。

UPCONV 2Fs：
アップコンバーター回路により、64/88.2/96kHz にアップコンバートされ、D/A 変換されています。

UPCONV 4Fs：
アップコンバーター回路により、128/176.4 / 192kHz にアップコンバートされ、D/A 変換されています。

UPCONV 8Fs：
アップコンバーター回路により、256/352.8/384kHz にアップコンバートされ、D/A 変換されています。

UPCONV DSD：
アップコンバーター回路により、PCM 信号を DSD 信号に変換し、D/A 変換されています。

DSD DIRECT：
DSD_F(DSD フィルター) 設定が OFF に設定されているときに DSD 信号が入力されている場合に表示

- アップコンバート設定されていても、入力ソースのサンプリング周波数の条件でアップコンバーター機能が使われないことがあります。
- 各入力ごとにお好みの設定をすることが可能です。
- ES-LINK 入力選択時は、OFF または、DSD のみ設定可能です。

c クロックモード表示

無表示：
CLK OFF 設定時

CLK OUT：
CLK 設定で OUT を選択している場合に表示
周波数表示部には、出力しているクロックの周波数を表示

CLK IN：
CLK 設定で IN を選択している場合に表示
周波数表示部には、入力されているクロックの周波数を表示

MCK IN：
CLK 設定で MCK IN、MCK10M 設定時に表示
周波数表示部には、入力されているクロックの周波数を表示

INTERNAL：
USB 入力時のアシンクロナス受信時、i.LINK 入力時のフローレート再生時に表示
周波数表示部には、使用しているマスタークロックの周波数を表示

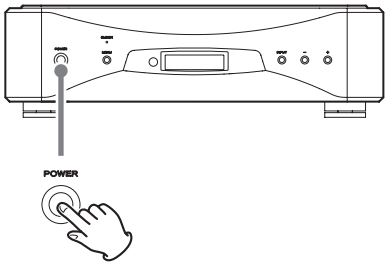
d クロック周波数表示

e 入力表示

f Fs 周波数表示

基本操作

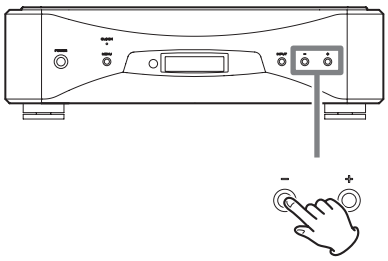
1 電源ボタン (POWER) を押して電源をオンにする。



電源ボタン (POWER) を突き当たるまで深く長く押してください。

オンにすると電源ボタン (POWER) の周囲が青く点灯します。

2 入力切換ボタン (INPUT) を押してソースを選ぶ。



入力切換ボタン (INPUT) を押すたびに次のように入力が切り換わり、ディスプレーに表示されます。

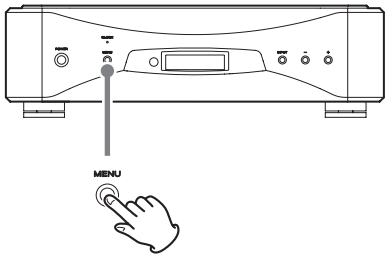
入力を選んだら、ソースを再生してください。

デジタル信号を感知できない場合、ディスプレーに表示される「INPUT」の右の Fs 周波数が表示されません。接続を確認してから接続した機器の電源をオンにしてください。

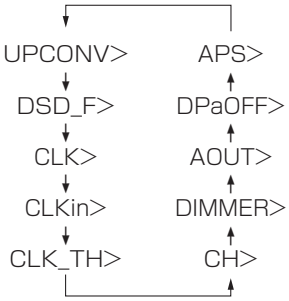
- 使い終わったら、電源ボタン (POWER) を押して電源をオフにしてください。
- CH 設定で Rch を選択し、Lch のセットと L-R LINK 接続されている場合、Rch 側での入力切替は、行えません。Lch に設定された D1 で入力切替を行ってください。

設定モード

1 メニューボタン (MENU) をくり返し押して、設定する項目を選ぶ。



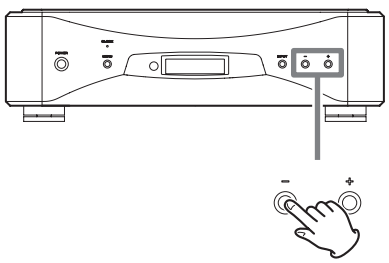
メニューボタン (MENU) を押すたびに、ディスプレーの表示が変わります。



入力切換ボタン (INPUT) を押すか、10 秒以上放置すると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

CH 設定で Rch を選択し、Lch のセットと L-R LINK 接続されている場合、設定モードで設定可能な項目は、CLK、CLKin、CH のみとなります。その他の項目は、Lch で設定した内容が反映されます。

2 選択項目変更ボタン (− /+) を使って、設定を変更する。



各設定内容については、13 ～ 17 ページをお読みください。

10 秒以上放置するか、入力切換ボタン (INPUT) を 1 回押すと、設定を終了して通常の表示に戻ります。

- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

設定モード時の表示と内容

UPCONV> ＊＊＊
アップコンバート設定。
アップコンバートするサンプリング周波数を切り換えます。(13 ページ)

DSD_F> ＊＊＊
DSD のフィルターを ON/OFF します。(13 ページ)

CLK> ＊＊＊
クロック設定。
外部クロックによる同期設定やクロックシンクに対応したソース機器へのクロック出力の設定を行います。(14 ページ)

CLKin> ＊＊＊
クロック入力端子を選択します。(15 ページ)

CLK TH> ＊＊＊
クロック入力モード時のクロック出力設定。(15 ページ)

CH> ＊＊＊
再生チャンネル設定。(15 ページ)

DIMMER> ＊＊＊
ディマー設定。
本体ディスプレーとインジケーターの明るさを 4 段階で調節できます。(16 ページ)

AOUT> ＊＊＊
アナログ出力設定。使用するアナログ出力端子を設定します。(16 ページ)

DPaOFF> ＊＊＊
自動ディスプレー消灯設定。(17 ページ)

APS> ＊＊＊
オート・パワー・セーブ設定。(17 ページ)

アップコンバート設定

UPCONV> ＊＊＊

CD などの PCM 信号が入力されているときに、この設定を切り換えることによって、入力信号をアップコンバートしたり、DSD 信号に変換することができます。
各入力端子ごとに異なる設定が可能です。
出荷時は「OFF」に設定されています。

- ES-LINK 入力時は、OFF、DSD のみ選択可能です。

OFF
アップコンバートを行いません。
入力信号がオリジナルのままストレートに D/A コンバーター部に伝送されます。

2Fs
入力された 32、44.1、48kHz のソース信号のサンプリング周波数を 2 倍の 64、88.2、96kHz にアップコンバートします。

4Fs
入力された 32、44.1、48、88.2、96kHz のソース信号のサンプリング周波数を 4 倍または 2 倍の 128、176.4、192kHz にアップコンバートします。

8FS
入力された 32、44.1、48、88.2、96、176.4、192kHz のソース信号のサンプリング周波数を 8 倍、4 倍または 2 倍の 256、352.8、384kHz にアップコンバートします。

DSD
DSD 信号にデジタルフォーマット変換します。

- スーパーオーディオ CD の DSD 信号はアップコンバートできません。

DSD デジタルフィルター設定

DSD_F> ＊＊＊
D/A コンバーターへの DSD 入力信号に対しデジタルフィルターの ON/OFF 切替えの設定です。

OFF
デジタルフィルターを使用しません。

- ディスプレーに「DSD DIRECT」が表示されます。

ON
デジタルフィルターを使用します。

クロック設定

CLK> ＊＊＊

外部クロックによる同期設定や、クロック シンクに対応したスーパーオーディオ CD トランスポートやソース機器へのクロック出力の設定ができます。
出荷時は「OFF」に設定されています。

- クロック同期できないソース機器との接続には、OFF を設定してください。

OFF
クロックシンクを使用せず、入力デジタル信号に追従したマスタークロックを PLL 回路にて生成します。
広い範囲のクロックに対応した動作が可能です。

OUT44
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 44.1kHz を出力します。

OUT88
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 88.2kHz を出力します。

OUT176
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 176.4kHz を出力します。

OUT48
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 48kHz を出力します。

OUT96
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 96kHz を出力します。

OUT192
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 192kHz を出力します。

OUT22M
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 22.5792MHz を出力します。

OUT24M
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から 24.576MHz を出力します。

- 本機のクロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) とソース機器のクロック シンク入力端子を接続し、本機のクロックにソース機器を同期させ、本機の高精度水晶発振器をマスタークロックとして動作させます。
- ソース機器は本機のクロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) に接続され、クロック シンクしている必要があります。

IN
本機のクロック シンク入力端子 (CLOCK SYNC IN) にクロックを入力し、クロック シンク動作します。

- ソース機器もクロックジェネレーターまたは本機のクロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) に接続し、クロック シンクしている必要があります。
- 入力可能なクロックの周波数は、44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz と 10MHz です。入力オーディオ信号と入力クロック信号は同期している必要があります。

MCK IN
本機のクロック シンク入力端子 (CLOCK SYNC IN) にクロックジェネレーターより、本機のマスタークロックである 44.1kHz の 512 倍の 22.5792MHz、または 48kHz の 512 倍の 24.576MHz のクロックを入力し、クロック シンクさせて動作します。
22.5792MHz を入力した場合の入力可能オーディオ信号は 44.1kHz、88.2kHz、176.4kHz、352.8kHz です。
24.576MHz を入力した場合の入力可能オーディオ信号は、48kHz、96kHz、192kHz、384kHz です。

- ソース機器もクロックジェネレーターまたは本機のクロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) に接続し、クロック シンクしている必要があります。
- 音楽再生中にクロックジェネレーターの電源をオフにしたり、クロック シンク接続をはずしてクロックの供給を止めると、スピーカーから大きなノイズが発生することがありますのでご注意ください。

MCK10M
本機のクロックシンク端子にクロックジェネレーターより、10MHz のクロックを入力し、その 10MHz をマスタークロックとして本機を動作させるモードです。
ES-LINK 入力使用時のみ選択可能なモードです。
P1 も MCK10M 設定を行い、ES-LINK 接続してください。CD 再生時は、本機のマスタークロックとして、入力されている 10MHz を PLL 回路を使用せずに、ダイレクトに使用します。SACD 再生時は、入力された 10MHz に内部の 22.5792MHz を同期させ動作します。

クロック入力端子選択

CLKin> ＊＊＊

クロック入力端子を選択します。

CLK
本機のクロック シンク入力端子 (CLOCK SYNC IN) にクロックジェネレーターよりクロックを入力し、クロック シンク動作します。

- クロック シンク入力端子 (CLOCK SYNC IN) の入力インピーダンスは 75Ω で、矩形波 TTL レベルの信号の入力が可能です。

10M
本機の 10MHz IN 端子にクロックジェネレーターを接続し、10MHz のクロックを入力し、クロック シンクさせて動作します。

- ソース機器もクロックジェネレーターまたは本機のクロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) に接続し、クロック シンクしている必要があります。
- 10M IN 端子の入力インピーダンスは 50Ω で、振幅レベル 0.5 ～ 1.0Vrms の正弦波 (サイン波) の信号の入力が可能です。

クロック出力設定

CLK_TH >＊＊＊

クロック入力モード時のクロック出力を設定します。

OFF
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) からクロック信号を出力しません。

ON
クロック シンク出力端子 (CLOCK SYNC OUT) から入力されたクロックと同じ周波数のクロックを出力します。

再生チャンネル設定

CH> ＊＊＊

本機が再生するチャンネルを選びます。
デフォルトは、「CH> －－－」となり、P1 とだけ結線された専用のシステムの場合この設定にしてください。
(ES-LINK、XLR_DUAL 接続時)
ES-LINK、XLR_DUAL 以外のデジタル入力端子を接続し、Lch-Rch 通信用端子 (L-R) もしくは i.LINK 端子を使用する場合は以下のチャンネル設定を行ってください。

- - -
使用チャンネルを指定しません。P1 のような L/R をモノラルで出力できるソース機器のみと接続する際に使用してください。L-R LINK 接続の必要はありません。

Lch
L チャンネル (フロント左) を再生します。L-R 端子から R チャンネルのデータを出力します。

Rch
R チャンネル (フロント右) を再生します。L-R 端子から R チャンネルのデータを入力します。

Cch
C チャンネル (センター) を再生します。 i.LINK でマルチチャンネル再生をする場合に選択します。

SWch
SW チャンネル (サブウーハー) を再生します。i.LINK でマルチチャンネル再生をする場合に選択します。

LSch
LS チャンネル (サラウンド左) を再生します。i.LINK でマルチチャンネル再生をする場合に選択します。

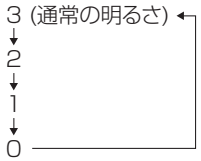
RSch
RS チャンネル (サラウンド右) を再生します。i.LINK でマルチチャンネル再生をする場合に選択します。

- ES-LINK / DUAL / i.LINK 入力以外の入力を使用する場合、L チャンネルに設定された D1 に接続してください。 L チャンネルに設定された各種の内容が R チャンネルの設定に反映されます。
- ソース機器にて 2 チャンネルソースを再生時に「Rch」、「Lch」以外が選択されている場合は、本機から音声が出力されません。

ディマー (DIMMER)

DIMMER> ＊＊＊

本体のディスプレーとインジケーターの明るさを調節できます。
出荷時は「3」に設定されています。



- 本機は P1 などのエソテリック製品付属のリモコンの DIMMER ボタンでも操作できます。

- 「3(通常の明るさ)」以外が選択されていても、エラー表示や設定メニュー表示を行っている時は、通常の明るさになります。

アナログ出力設定

AOUT> ＊＊＊

使用するアナログ出力端子を設定します。
出荷時は「XLR2」に設定されています。

RCA
RCA 端子からアナログオーディオ信号を出力します。

XLR2
XLR 端子から 2 番 HOT でアナログオーディオ信号を出力します。

XLR3
XLR 端子から 3 番 HOT でアナログオーディオ信号を出力します。

自動ディスプレー消灯設定

DPaOFF> ＊＊＊

ディスプレー表示を一定時間経過後、自動的に消灯する設定ができます。
出荷時は、「ON」に設定されています。

ON
30 分間操作の無い状態が続き、表示に変化がないと、ディスプレー表示が自動的に消灯します。

OFF
ディスプレー表示は自動的に消灯しません。

- ディスプレー表示器は、同じ表示状態で長時間使用し続けると、輝度ムラが起こることがありますので、設定を「ON」にすることをお勧めします。

オート・パワー・セーブ設定

APS> ＊＊＊

入力ソースのデジタル信号にロックできない状態が指定時間続いた場合、自動的に電源がオフになります。

30m
無操作で再生をしていない状態が 30 分続いた場合、電源を自動的に OFF します。

60m
無操作で再生をしていない状態が 60 分続いた場合、電源を自動的に OFF します。

90m
無操作で再生をしていない状態が 90 分続いた場合、電源を自動的に OFF します。

120m
無操作で再生をしていない状態が 120 分続いた場合、電源を自動的に OFF します。

OFF
オート・パワー・セーブ機能を使用しません。

APS(AUTO POWER SAVE) 機能について

本製品は、欧州待機時電力規制（ErP）対応製品です。上記規制対応のため、製品出荷時の APS(AUTO POWER SAVE) 機能の設定が 30 分 (出荷時設定) に設定されおり、入力ソースのデジタル信号にロックできない状態が 30 分間経過すると自動的に電源がオフになります。

パソコンと接続して音楽ファイルを再生する

ドライバーのインストール

Mac OS X の場合

Mac OS X 10.6 (Snow Leopard)
(OS X 10.6.4 以降)
Mac OS X 10.7 (Lion)
Mac OS X 10.8 (Mountain Lion)
で動作します。(2013 年 10 月現在)

OS 標準のドライバーで動作するので専用ドライバーのインストールは必要ありません。

Windows OS の場合

専用ドライバーをパソコンにインストールする
本機でパソコンに記録されている音楽ファイルの再生を行うには、まず以下の弊社ダウンロードページより専用ドライバーをダウンロードして、パソコンにインストールする必要があります。

専用ドライバーダウンロードページアドレス
http://www.esoteric.jp/products/esoteric/usb/usb_driver.html
上記ダウンロードページより、専用ドライバーをダウンロード後、インストールしてください。

USB 接続できるパソコンの OS は
Windows XP (32bit 版)
Windows Vista (32bit 版、64bit 版)
Windows 7 (32bit 版、64bit 版)
Windows 8 (32bit 版、64bit 版)
のいずれかとなります。これ以外の OS での動作保証はいたしません。

ご注意

パソコンとの USB 接続の前に専用ドライバーソフトをインストールしてください。
ドライバーインストール前にパソコンと本機を接続した場合、正しく動作させることができません。また OS に WindowsXP をお使いの場合には、パソコンの動作が著しく遅くなってしまい、パソコンの再起動が必要となる場合があります。

専用ドライバーのインストール手順の詳細については弊社ダウンロードページをご覧ください。

パソコンのハードウェア、ソフトウェアの構成によっては、上記の OS を使用していても動作しない場合があります。

転送モードについて

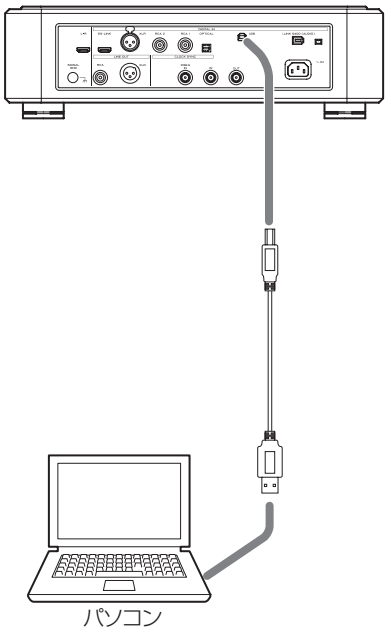
本機は HIGH SPEED アシンクロナスモードで接続します。伝送可能サンプリング周波数は 44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz/176.4kHz/192kHz/352.8kHz/384kHz/DSD 2.8MHz/DSD 5.6MHz です。

正しく接続されると、OS のオーディオの出力先として、「ESOTERIC USB AUDIO DEVICE」が選択可能になります。

アシンクロナスモードでは、パソコンから送出されたオーディオデータを本機側のクロックを使って処理しますので、データ伝送時のジッターを抑制することができます。

1 USB ケーブルでパソコンと本機を接続する。

ケーブルは本機の接続端子に合うものをご使用ください。

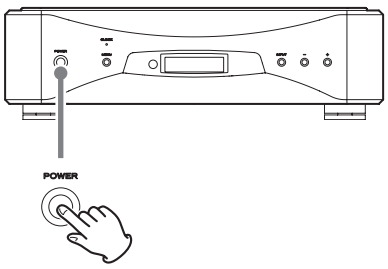


パソコン

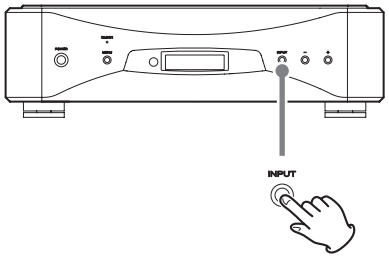
2 パソコンの電源を入れる。

OS が正常に起動できたことを確認してください。

3 電源ボタン (POWER) を押して本機の電源を入れる。



4 入力切換ボタン (INPUT) をくり返し押して「USB」を選ぶ。



5 パソコンで音楽ファイルの再生を開始する。

パソコン側の音量調整は最大に設定して、本機に接続したアンプで音量を調整するとより良い音質が得られます。アンプの音量は再生開始時には最小にし、徐々に大きくして調整してください。

- パソコンから本機をコントロールしたり、本機からパソコンをコントロールすることはできません。
- 本機から USB 経由でパソコンに音楽ファイルを転送することはできません。
- USB 接続で音楽ファイルを再生しているときに、以下の操作を行わないでください。パソコンの誤動作の原因となります。これらの操作は必ず音楽再生ソフトを終了してから行ってください。
  USB ケーブルを抜く
  本機の電源をオフにする
  入力を切り換える
- USB 接続で音楽ファイルを再生しているときは、パソコンの操作時のサウンドも再生されます。 操作時のサウンドを再生したくない場合は、パソコン側で設定を行ってください。
- 音楽再生ソフトを起動した後で本機とパソコンを接続したり、本機の入力を「USB」に設定した場合は、音楽ファイルが正しく再生できないことがあります。この場合は、音楽再生ソフトを再起動するか、パソコンを再起動してください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (26 ページに記載) にご連絡ください。

電源が入らない。

- ➡ 電源コードが、本体背面のインレットとコンセントに接続されているか確認してください。
- ➡ 電源コードが接続されたコンセントに電流が流れているか、別の機器を接続するなどして確認してください。

スピーカーから音が出ない。音が歪む。

- ➡ デジタルソース機器、アンプ、スピーカーとの接続を確認してください。(8 ページ)
- ➡ 接続した端子に合わせて、入力を切り換えてください。(12 ページ)
- ➡ アンプとの接続に合わせて、「AOUT（アナログ出力）設定」を行ってください。
- ➡ アンプなどの音量を調節してください。

ディスプレーに表示される「INPUT」の右の Fs 周波数が表示さない。

- ➡ 選択されている入力端子に接続されている機器の電源を入れてください。
- ➡ 選択されている入力端子が正しく接続されているか確認してください。

「プツ、プツ……」と周期的なノイズが出る。

- ➡ クロックシンクモード時にスピーカーから「プツ、プツ……」と周期的なノイズが出る場合は、接続している機器がクロックシンクモードになっていない可能性があります。クロックシンク端子の接続状態や、接続している機器のクロックシンク設定を確認してください。

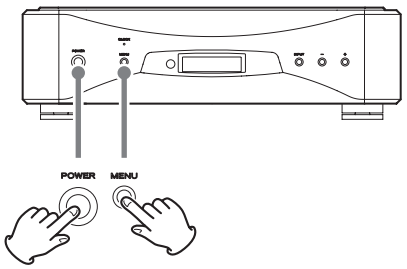
CLOCK インジケーターの点滅が消えない。

- ➡ クロックシンクを使用しない時は、クロック設定で「OFF」を選んでください。(14 ページ)
- ➡ 同期できないクロックが入力されている可能性があります。クロックシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約 1 分後に始めから操作してください。

メッセージ一覧

出荷時の状態に戻す



設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

以下の操作をすると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

1 電源をオフにする。

電源がオンだった場合は、電源ボタン (POWER) を押して電源をオフにしてから 30 秒以上待ってください。

2 メニューボタン (MENU) を押しながら電源ボタン (POWER) を押す。

ディスプレーに「Setup CLR」(設定消去) が表示されたらメニューボタン (MENU) から指を離してください。

サンプリング周波数表示部に – – – が表示される。

入力された信号に問題があります。
PCM または DSD 以外の信号は入力しないでください。
デジタル機器との接続を確認してください。
Dolby Digital、DTS、AAC などの信号はデコードできません。再生機側で PCM に変換して出力してください。

ディスプレーに表示される「INPUT」の右の Fs 周波数が表示さない。

デジタル信号にロックできません。入力切換ボタン (INPUT) を押して、デジタル機器が接続されている端子を選んでください。
接続した機器の電源をオンにしてください。接続した機器の設定を確認してください。

LOOP ERR!

i.LINK の接続がループになっています。ツリー接続にしてください。(23 ページ)

CLOCK!

クロック関係の設定を確認してください。
入力クロックがない場合は、クロック周波数表示部に「- - -」が表示されます。
設定されているモードと入力されているクロックが正しくない場合は、クロック周波数表示部が点滅します。

仕　様

アナログ音声出力

端子
　XLR 端子（モノラル）. . . . . 1 系統
　RCA（モノラル）. . . . . 1 系統
出力インピーダンス
　XLR 100Ω
　RCA 47Ω
最大出力レベル
　(1kHz、フルスケール信号入力、10kΩ 負荷時)
　XLR（0dB 設定時）. 5.0Vrms
　RCA 2.5Vrms
周波数特性（192kHz PCM 信号入力時）
　5Hz ～ 55kHz（-3dB）
S/N 比. 113dB
歪率 . . . . . 0.0007%（1kHz）

デジタル音声入力

HDMI ケーブル端子（ES-LINK/L-R）信号伝送
　LVDS 差動伝送
XLR 端子 . . . . . 1 系統
　入力レベル. 5.0Vp-p
　入力インピーダンス 110Ω
　入力サンプリング周波数. . . . . 32 ～ 384kHz
　16bit ～ 48bit
　PCM（AES/EBU フォーマット）
　DSD（ES-LINK1、ES-LINK2 フォーマット）
RCA 端子. . . . . 1 系統
　入力レベル. 0.5Vp-p
　入力インピーダンス 75Ω
　入力可能サンプリング周波数 . . . . . 32 ～ 192kHz
　16bit ～ 24bit
　リニア PCM（IEC60958 フォーマット）
光デジタル端子. . . . . 1 系統
　入力レベル. . . . . - 24.0 ～ -14.5dBm peak
　入力可能サンプリング周波数 . . . . . 32 ～ 192kHz
　16bit ～ 24bit
　リニア PCM（IEC60958 フォーマット）
i.LINK（AUDIO）端子 . . 2 系統 (6 ピン、4 ピン）S400
　入力可能サンプリング周波数 . . . . . 32 ～ 192kHz
　16bit ～ 24bit
　リニア PCM
　DSD
USB 端子. . . . . 1 系統（B 端子）
　入力可能サンプリング周波数 . . . . . 32 ～ 384kHz
　16bit ～ 32bit
　リニア PCM
　DSD 2.8MHz,5.6MHz

クロック出力

端子 . . . . . BNC 端子 ×1
出力レベル . . . . . TTL レベル相当（75Ω 負荷時）
出力周波数
44.1、88.2、176.4、48、96、192kHz 、22.5792、24.576MHz
　入力と同じ周波数（スルー出力設定時）
出力周波数精度. . . . . ±0.5ppm（出荷時）

クロック入力

端子 . . . . . BNC 端子 ×2
入力インピーダンス
　IN 75Ω
　10MHz IN 50Ω
入力可能周波数
　IN . . . . . 44.1、88.2、176.4、48、96、192kHz
　22.5792、24.576MHz（±10ppm）
　10MHz IN . . . . . 10MHz（±10ppm）
入力レベル
　IN . . . . . TTL レベル相当
　10MHz IN . . . . . サイン波 0.5 ～ 1.0Vrms

一般

電源 . . . . . AC 100V 50-60Hz
消費電力. 20W
外形寸法 (WxHxD、突起部含む)
　445×132×449 (mm)
質量 24kg

許容動作温度 . . . . . + 5℃～+ 35℃
許容動作湿度 . . . . . 5%～ 85% (結露のないこと)
許容保管温度 . . . . . − 20℃～+ 55℃

付属品

　電源コード ×1
　HDMI ケーブル ×1
　フェルト ×4 枚
　取扱説明書 (本書)×1
　ご愛用者カード ×1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

i.LINK (IEEE1394)

i.LINK とは、国際標準規格である IEEE1394 の別称です。
本機は i.LINK(AUDIO) に対応しています。
本機の i.LINK(AUDIO) 端子に i.LINK(AUDIO) 対応機器を i.LINK ケーブルで接続すると、2ch リニア PCM 信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、スーパーオーディオ CD のマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数の i.LINK(S400) 対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

著作権保護システム DTCP

i.LINK を使ってスーパーオーディオ CD の音声を再生するためには、再生機器と D/A コンバーターの双方が著作権保護システム DTCP (Digital Transmission Content Protection) に対応していなければなりません。
本機は DTCP に対応しています。

データ転送速度

本機の最大データ転送速度は 400Mbps(S400) です。
接続には、市販の S400 対応の i.LINK ケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するときに、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

フローレートコントロール

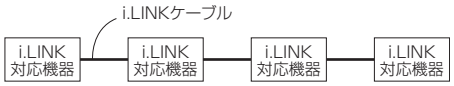
本機は i.LINK フローレートコントロール伝送方式に対応しています。フローレートコントロールとは、i.LINK 入力より伝送されたオーディオデータを本機内部に設けられた RAM 内に一旦蓄積し、本機内蔵の高精度クロックを使いデータを RAM から取り出すことにより、i.LINK 伝送時に発生する伝送ジッターを取り除く伝送技術です。再生機と本機とのクロック周波数の誤差により、内蔵の RAM のデータ蓄積が一定量よりも大きくなったり、小さくなったりした場合は、本機より再生機に対して、データ伝送の速度を変化させるコマンドを伝送し、本機が再生機をコントロールします。フローレートコントロールは、対応プレーヤーとの 1 対 1 伝送時に機能します。

注意

- i.LINK の伝送フォーマットには、本機の「i.LINK (AUDIO)」(A&M プロトコル) の他に、BS デジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVD レコーダーやデジタルビデオの「DV」などがあります。本機に i.LINK(AUDIO) 非対応の機器 (パソコンの周辺機器など) を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- データ転送中は、つながっている機器の i.LINK ケーブルを抜き差ししたり、電源をオン / オフしないでください。
- i.LINK 対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。
- i.LINK に対応していても、機器によっては動作しないことがあります。
- 受信側の機器が本機の出力モードに対応していないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

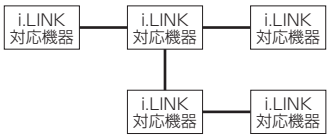
複数の i.LINK 機器を接続するには

デイジーチェーン接続 (数珠つなぎ)
数珠つなぎに一列に接続する場合は、本機を含めて 17 台まで接続できます。

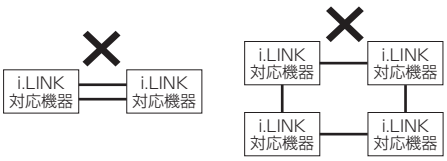


ツリー接続

i.LINK 端子を 3 個以上備えている機器がある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて 17 台まで接続できます。



信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。接続が輪 (ループ) にならないように注意してください。



この機器の i.LINK インターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。

1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0

この規格の AM824 sequence adaptation layers の中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、スーパーオーディオ CD に対応しています。

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。

添付のご愛用者カードに必要事項を御記入の上、ご購入後なるべく 1 ヶ月以内にご返送ください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日から 5 年です。

- 保証書発行には約 1 ヶ月程度かかります。あらかじめご了承ください。
- ご記入頂いたご愛用者カードのご購入日が弊社出荷日と大きく異なる場合（6 ヶ月以上ご愛用者カードの返送がない場合、ご愛用者カードでのユーザー登録をせず転売された場合等）は、保証書を発行できない場合があります。

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
4. 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
   (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
   (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
   (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
   (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
   (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
   (6) 消耗品の自然消耗、磨耗、劣化や寿命部品等の交換が必要となった場合のメンテナンスやオーバーホール
   (7) 保証書の提示がない場合
   (8) 保証書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名 (印) の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を製造打ち切り後 8 年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (26 ページに記載) にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

20 ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (26 ページに記載) にご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害 (録音内容などの補償) の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：モノラルD/Aコンバーター Grandioso D1
シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

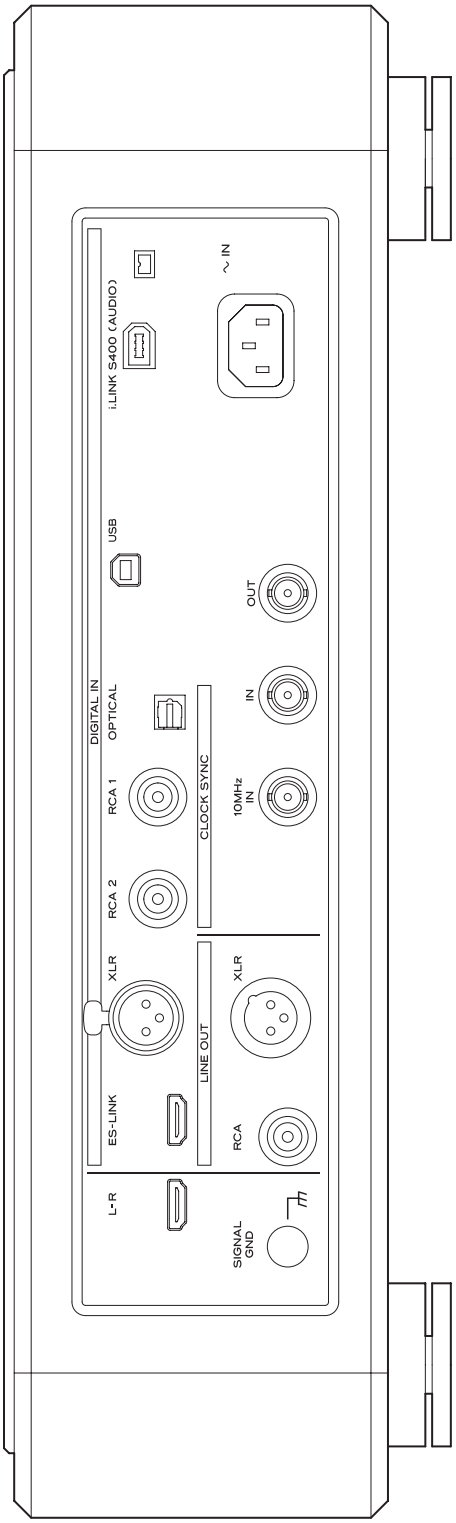
本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

リアパネル


~ IN
i.LINK S400 (AUDIO)
USB
OUT
IN
10MHz
IN
CLOCK SYNC
DIGITAL IN
OPTICAL
RCA 1
RCA 2
XLR
XLR
LINE OUT
ES-LINK
RCA
L-R
SIGNAL
GND

エソテリック株式会社

〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47　　http://www.esoteric.jp/

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

市内通話料でOK ナビダイヤル®　0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

市内通話料でOK ナビダイヤル®　0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-0026　埼玉県入間市小谷田858
電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

エソテリック株式会社

PRINTED IN JAPAN 0514·MA-1987B